

5~7月に播種して直売向けに・・

ケイトウ育苗箱栽培の基肥の種類と切り花品質

育苗箱栽培では露地栽培で生育がばらついて栽培が難しいケイトウを簡単に少量で栽培できます。直売所などへ連続して出荷できるよう播種時期と基肥の種類と切り花品質を調査しました。

育苗箱はL:W:H=55cm:35cm:10cmの大きさのものに、赤土：腐葉土：ピートモス=7:2:1(容積比)で混合した用土にあらかじめ基肥を混ぜて育苗箱に充填し、ケイトウをすじ播きし、本葉展開後に50本/箱に間引きしました。栽培は露地で行いタイマーを使って散水チューブでかん水を行いました。

播種を5~7月に行う場合、1箱当たり用土量は10~15L、基肥としてN2.4~4.2g程度となるようエコロング424-70を単用で、またはエコロング424-70と複合燐加安42号を等量ずつ混ぜることで品質のよい切り花が収穫できます。

施肥量が多くなると主に切り花重と茎径は大きくなり、花径はあまり大きくなりません。また施肥量が同じでも用土量10Lと15Lでは15Lの方が切り花のボリュームはやや大きくなります。

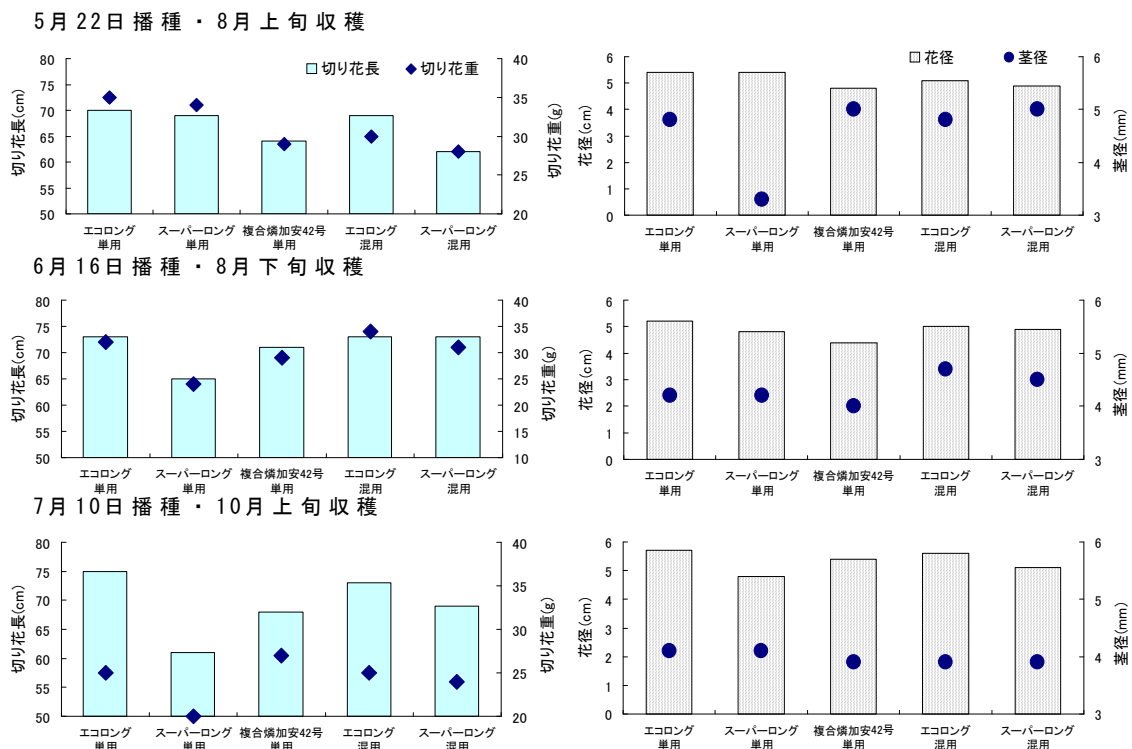


図 播種時期ごとの基肥の種類とケイトウの切り花品質
左側：切り花長と切り花重、右側：花径と茎径

混用はエコロング424-70またはスーパーロング424-70と複合燐加安42号を等量ずつ混合して使用。いずれの基肥もN4.2g/箱